

専門学校ESPエンタテインメント東京 声優芸能科

授業科目名	業界知識総合講座B		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	業界知識総合講座B		年次	2年次
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	38回(78単位時間)	年間単位数 2単位
科目設置コース	俳優養成コース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	幼少期から活動を始め、国内外の各種イベントゲスト出演・審査員・全国誌取材・FMラジオのメインパーソナリティ・振付師・舞台演出・舞台主演等 各分野で活躍 TikTok3ヶ月で20万フォロワー超え。各SNSにて個人・企業に指導し、1コンテンツあたり4800万再生超え実績あり。				
授業概要					
芸能界における業界知識を学ぶと共に、業界において自分自身を魅力的に発信していく為のノウハウを学ぶ。					
到達目標					
芸能界に進んだ際の対応力を習得すると共に、よりハイレベルな自己発信力を習得する。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	和曲、和ロックなど様々な曲に合わせて殺陣振りを指導。 最初は振りを渡しますが、チーム毎に振付や台詞を考える回を作る。				
【前期】 6～10回目	SNSを活用したプロデュース・SNSリテラシーの向上、行動・発信力の重要性、AI社会について お金との付き合い方、モラルある発信について				
【前期】 11～15回目	振付映像撮影・コンテンツ制作について				
【前期】 16～21回目	商用利用について、編集(キャップカット、VLL0、プレミアプロ)編集力の強化				
【後期】 22～30回目	SNSを使用した自己の発信方法について(実践)指定内容から選択させ、ベア撮影、編集、発表				
【後期】 31～38回目	SNSを使用した自己の発信方法について(実践)指定内容から選択させ、個人撮影、編集、発表				
評価方法	学期末に実施する試験点数、出席率、講師評価等の項目から総合的に評価する。 S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 声優芸能科

授業科目名	フォトシューティング		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	フォトシューティング	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	38回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	俳優養成コース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	国内外で活動するファッションモデルとして東京コレクションなどのブランドファッションショーやスチール広告などの他、ミュージックビデオや企業CM・ラジオなど多岐に渡って出演。ミスターコンテストの日本代表として世界大会に出場した経験も持っている。				
授業概要					
様々なシチュエーションの撮影を行い、仕事としての撮影に臨めるよう幅広い対応力を養う。 その過程で営業ツールとしてのモデルBOOK(ポートフォリオ)を完成させ、自身を売り出していく準備をしていく。					
到達目標					
撮影場所や内容、光源によってどのようなボーディングをするべきか等、様々な事を総合的に考え、カメラマンやクライアントの意図を汲み取って適切な表現ができた上で自分の良さを出せるようになる。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	・カメラや写真の理解 ・光源の種類による見え方の違いの理解				
【前期】 6～10回目	・スタジオ撮影での見え方の理解、注意点 ・自分の頭の中で想像した自分と実際の見え方(写真)との食い違いの研究				
【前期】 11～15回目	・ロケーション撮影(外)での見え方の理解、注意点 ・天気や季節、服装によるボーディングのバリエーション ・シチュエーション別での撮影・表情・体の使い方				
【前期】 16～21回目	・ロケ撮影実習 ・自分の撮りたいイメージをカメラマンへ共有、提案				
【後期】 22～24回目	・Bookやコンボジットを意識した撮影 ・宣材撮影の重要性和意識向上、案件別によるコンボジット写真の組み替え等				
【後期】 25～29回目	・ファッション、雑誌、ビューティー、商品紹介、広告など、ジャンル別での撮影で意識すること、注意点				
【後期】 30～34回目	・スタジオ撮影実習 ・自分の撮りたいイメージをカメラマンへ共有、提案 ・Book作成				
【後期】 35～38回目	・ビューティー撮影実習 ・商品撮影実習 ・グループ撮影実習				
評価方法	学期末に実施する試験点数、出席率、講師評価等の項目から総合的に評価する。 S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 声優芸能科

授業科目名	映像演技(応用)		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	映像演技(応用)	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	38回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	俳優養成コース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	大学在学中に劇団に在籍。舞台・映像作品への出演を重ねながら殺陣稽古を主催し、パフォーマンス集団の代表を務める。数々の映画やテレビ作品に出演している。					
授業概要						
映像台本・CMコンテなどを使用し、実践的に撮影手順・カメラワーク・映像作品に適した演技メソッドを学ぶ。						
到達目標						
撮影現場において、様々な演出・クライアント要望に対応できる力をつける。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	ガイダンス、座学(ドラマ台本を用いての用語解説)フレームサイズレッスン					
【前期】 6～10回目	カメラワークの理解と実践					
【前期】 11～15回目	ドラマシーンの稽古→現場を再現しての撮影					
【前期】 16～21回目	コンテを用いてのCM講座・実践					
【後期】 22～29回目	レギュラー・サブ・アンサンブル演技。合同授業用映像作品準備					
【後期】 25～29回目	合同授業用映像作品撮影					
【後期】 30～34回目	映像演技フォームレッスン					
【後期】 35～38回目	映像系オーディションレッスン・ドラマ演技実践					
評価方法	学期末に実施する試験点数、出席率、講師評価等の項目から総合的に評価する。 S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 声優芸能科

授業科目名	ヴォイトレ＆表現歌唱(応用)		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	ヴォイトレ＆表現歌唱(応用)	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	38回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	声優養成コース、俳優養成コース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	数々のミュージカルの舞台に立ち、ボーカルユニットではツアーやレコーディングなど精力的に活動。現在はボイストレーナーとして、「疲れない声の使い方」を重点的に指導。				
授業概要					
歌を歌う為に必要なトレーニングを行う。					
到達目標					
一年次に学んだ基礎をいかし、ステージでの表現を習得する。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	発声について 基本の発声、ハミング、裏声				
【前期】 6～10回目	音階トレーニング				
【前期】 11～15回目	ブレスについて スタッカートについて				
【前期】 16～21回目	ステージにおけるパフォーマンスについて マイクの持ち方				
【後期】 22～24回目	個人の希望確認 個人歌唱指導				
【後期】 25～29回目	課題曲、自由曲にて個人歌唱指導				
【後期】 30～38回目	公演に向けての個人歌唱指導				
評価方法	学期末に実施する試験点数、出席率、講師評価等の項目から総合的に評価する。 S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 声優芸能科

授業科目名	演技メソッド・実践論		授業形態 / 必・選	講義	必修
	学則上表記	演技メソッド・実践論	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	38回(78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置コース	俳優養成コース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	大学在学中に劇団に在籍。舞台・映像作品への出演を重ねながら殺陣稽古を主催し、パフォーマンス集団の代表を務める。数々の映画やテレビ作品に出演している。				
授業概要					
プロの俳優に必要な表現方法、対応力を学ぶ。					
到達目標					
台本に書かれた内容を即座に読み取り、求められた役柄に合わせた演技ができるようになる。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	ガイダンス(初回)演技構成とセリフ回しの強化				
【前期】 6～10回目	数値化理論とセリフ実践。役作りの深掘り・ピフォーアフター撮影・レビュー				
【前期】 11～15回目	エチュード応用				
【前期】 16～20回目	想定されるオーディション実践(CM・TVドラマ・映画)				
【後期】 21～24回目	オーディション自己PR及び実技対策				
【後期】 25～29回目	学内オーディション本番→レビュー・フィードバック 必要に応じて合同授業用映像作品の追撮を行う				
【後期】 30～34回目	演技メソッド(スタニスラフスキーシステム・パワーマイム・つか芝居・舞台視野)				
【後期】 35～38回目	メソッドを使用している演技の鑑賞・研究				
評価方法	学期末に実施する試験点数、出席率、講師評価等の項目から総合的に評価する。 S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 声優芸能科

授業科目名	2.5次元演技		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	2.5次元演技	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	38回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	俳優養成コース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	12歳から市民子供ミュージカルの舞台に立ち、大学でミュージカルコースを専攻。卒業後は大劇場や小劇場の舞台から映像、ジャンルも現代劇から時代劇まで幅広く活躍。					
授業概要						
日本人である以上、お芝居をする際に時代劇というものは欠かせない要素です。日本舞踊では まずは浴衣をきちんと着こなせるようになることを目標に、その上で着物を着た際の美しい所作、着物の捌き方を学びます。また、それと同時に簡単な踊りもやっていきます。 また殺陣＆アクションでは、基本の所作や立ち振る舞いなど、安全を第一に考えて行います。着付けや型など、殺陣の基本を学びます。						
到達目標						
日本舞踊は「心・性根・表現・形・動き・間・位置・流れ」と8つの目的がありますが、最終的には演者の「心」を演じるものです。なので、振りを覚えて踊るだけでなく、役者として、その踊りの「心」を表現できるようになること、時代劇の現場に行っても最低限の所作は出来るようになることを目標に取り組みます。殺陣＆アクションでは、舞台やドラマで必要になる立ち回りの基本技術の習得を目標とします。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	浴衣の着方を覚えます。 正座に慣れること。立ち・座り・お辞儀に焦点をおく。 心＝穏やかにする 眼＝まっすぐ前をみる 背＝まっすぐ、肩甲骨を寄せる 足＝そろえる 手＝指をそろえて親指はしまう。ひじは張らない。					
【前期】 6～10回目	着物を着た際の歩き方・手の動き舞踊で基本となる、首の動き・あやにする・おすべりなどの動作扇子の使い方を覚え、美しく正しい形を学ぶ。					
【前期】 11～15回目	より難しい曲に合わせたの踊りに挑戦。					
【前期】 16～20回目	動きの幅を広げつつ、浴衣だけではなく、着物の着付けにも触れてみる。					
【後期】 21～24回目	【殺陣】帯、袴の着付け/刀の振り方、構え方【アクション】パンチ、キックの打ち方 【殺陣】基本の型19手/対面素振り数種【アクション】パンチ、キックの捌き方/マット運動					
【後期】 25～29回目	【殺陣/アクション】特殊武器を用いた立ち回り(長もの、ナイフ) 【殺陣/アクション】台本を使って役に適した身体表現をする					
【後期】 30～34回目	【殺陣/アクション】特殊武器を用いた立ち回り(長もの、ナイフ) 【殺陣/アクション】台本を使って役に適した身体表現をする					
【後期】 35～38回目	【殺陣/アクション】舞台表現を意識した立ち回り 【殺陣/アクション】映像表現を意識した立ち回り					
評価方法	学期末に実施する試験点数、出席率、講師評価等の項目から総合的に評価する。 S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 声優芸能科

授業科目名	舞台演技(応用)		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	舞台演技(応用)	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	38回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	俳優養成コース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	劇団出身。豊富な舞台経験と映像作品への出演、自身が女優として活動するだけでなく、脚本家、演出家としても幅広く活躍している。					
授業概要						
エチュードを通して様々な感情を疑似体験し、演者としての表現力を培う。						
到達目標						
実際の舞台公演を通じて、観客の心を掴む表現を身につける。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	エチュードで自己を開放し、日常では他人に見せる事の無い感情表現を学ぶ。					
【前期】 6～10回目	様々なテーマのシチュエーションから感情の引き出しを増やし、与えられたキャラクターを演じる。					
【前期】 11～15回目	感情表現の他、観客の視線を考慮した舞台上での動きを学ぶ。					
【前期】 16～20回目	前期公演の稽古でこれまで学んだキャラクターの表現をアウトプットする。					
【後期】 21～24回目	前期公演から自分の課題を見つける。					
【後期】 25～29回目	脚本・演出授業の課題・作品に演出を付ける事で、演者としての自身のやるべきことを学ぶ。					
【後期】 30～34回目	上記に加え、卒業公演の稽古を通してこれまで学んだ全てを役作りに反映する。					
【後期】 35～38回目	卒業公演の稽古					
評価方法	学期末に実施する試験点数、出席率、講師評価等の項目から総合的に評価する。 S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 声優芸能科

授業科目名	脚本演出		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	脚本演出	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	38回(78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置コース	俳優養成コース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	劇団出身。豊富な舞台経験と映像作品への出演、自身が女優として活動するだけでなく、脚本家、演出家としても幅広く活躍している。					
授業概要						
エチュードを通じて作品づくりの基礎を学び、ストーリーだけでなく、登場人物のキャラクターなど、 観客の心を掴む数々の要素を学ぶ。						
到達目標						
実際に短編脚本に近い物を書いたり、作品を演出し、作り手の立場に立つ事で演者としてやるべき作業を学ぶ。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	テーマ「衝突と和解」衝突をテーマにエチュードを演じ、作品づくりの要素を学ぶ。また、観ている側は脚本家、演出家の目線で作品を考察する。					
【前期】 6～10回目	テーマ「キャラクター構成」「爆弾をぶちこむ」その他、衝突以外に作品に入れ込むべき要素をエチュードを通して学び、考察する。					
【前期】 11～15回目	テーマから登場人物や登場人物のバックグラウンドを考え、脚本に近いものを書き、作品作りをする。					
【前期】 16～20回目	舞台発表作品から、これまで学んできた要素を考察する。					
【後期】 21～24回目	舞台発表作品を見て課題を見出す。映像、舞台の脚本の形式を学ぶ。短編作品を演出する作品選びをする。(希望者が居る場合は脚本も執筆、面白い作品の書き方をディレクションします)					
【後期】 25～29回目	短編作品を演出する。キャスティング、演出効果なども講師のアドバイスの元、自身でやる。					
【後期】 30～34回目	上記に加え、卒業公演作品にこれまで学んだ事を土台に取り組む。					
【後期】 35～38回目	卒業公演作品に取り組む。					
評価方法	学期末に実施する試験点数、出席率、講師評価等の項目から総合的に評価する。 S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 声優芸能科

授業科目名	オーディション対策(応用)		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	オーディション対策(応用)	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	38回(78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置コース	俳優養成コース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	元アナウンサー。リポーターやキャスターとして活躍。ラジオでは有名女優のアシスタントを務めたのをはじめ多数出演し、パーソナリティーとしてレギュラーで活躍した。					
授業概要						
タレントとして人前に出る様々なシーンで臆せず喋れるように、アナウンスの基礎力・フリートーク力・アドリブ力・人の話を聞く力をつける。オーディションに向けた対策をする。様々な授業で1年間学んできた内容をどうアウトプットすれば選ばれるようになるか、他者目線を持って自分を見つめる。他者から求められる演技や表現に対する深い思考と目的の理解・そこに至るまでの逆算思考の訓練。						
到達目標						
アナウンスの基礎力向上。オーディションに向けた(書類、写真、自己PR)準備をする。柔軟にフリートークができるようになる。「職業」「ビジネス」としての意識と視点・思考への変換を目的とし、「やりたい」から「できる」にステージアップする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	視点と思考の変換(自分視点から他者視点へ) 関係各所の仕事を知る					
【前期】 6～10回目	自分の強みと特徴をどう「仕事」に活かせるかを考え、深める					
【前期】 11～15回目	自分の目標設定と逆算ロードマップの作成 相手(関係各所)の仕事を想像した上で、自分の進みたい道の戦略と実践					
【前期】 16～20回目	戦略と実践のコミット 実験と改正 企業的目線の獲得					
【後期】 21～24回目	発声・滑舌練習の振り返り、定着 オーディションに向けた準備(書類・写真・自己PR・動画撮影)					
【後期】 25～29回目	バラエティ番組を想定して様々なフリートークの練習					
【後期】 30～34回目	仕事を掴むためのオーディション対策					
【後期】 35～38回目	社会に出て役に立つトーク力の向上、自己アピール					
評価方法	学期末に実施する試験点数、出席率、講師評価等の項目から総合的に評価する。 S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 声優芸能科

授業科目名	ダンス(応用)		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	ダンス(応用)	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	38回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	俳優養成コース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	芸能事務所でのダンス指導やライブの振り付け、TV出演の際の振り付け指導やディレクションなどを担当。				
授業概要					
リズムに合わせて体を動かす。その為に必要な筋力トレーニングやストレッチも行う。					
到達目標					
色々なジャンルでの基本的な振付を習得する。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	ストレッチ、筋力トレーニング、リズムトレーニング				
【前期】 6～10回目	アイソレーション				
【前期】 11～15回目	アイソレーションを取り入れて、振付の練習				
【前期】 16～20回目	曲に合わせての振付練習				
【後期】 21～29回目	曲に合わせての振付練習				
【後期】 30～38回目	後期試験曲振り付け				
評価方法	学期末に実施する試験点数、出席率、講師評価等の項目から総合的に評価する。 S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 声優芸能科

授業科目名	声優芸能実地演習Ⅱ		授業形態 / 必・選	演習	必修	
	学則上表記	声優芸能実地演習Ⅱ	年次	2年次		
授業時間	180分(1単位時間45分)		年間授業数	12回(48単位時間)	年間単位数	3単位
科目設置コース	声優養成コース、俳優養成コース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等					
授業概要						
それぞれのイベント等における対応、現場における進行の様子・作業について研修を行う。						
到達目標						
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。 企画、立案、進行等、インプット・アウトプット能力の向上。						
授業計画・内容						
【前期】 1～3回目	舞台観劇 特別授業、イベント					
【前期】 4～6回目	前期公演					
【後期】 7～9回目	オーディション対策特別授業、オーディション					
【後期】 10～12回目	特別授業、イベント 卒業公演					
評価方法	授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価					
備考						